

## 仏像よりも建物？(4月17日 36日目)

一日中ほぼ平坦な道を歩きました。松山市内の道後温泉街の歩きだったので、遍路道が込み入っており、地図と道案内マークの違いに戸惑いながらの歩きは、とても神経を使います。この為、道の間違いも多くて、距離の割にはとても疲れました。50番札所繁多寺、51番札所石手寺、52番札所大山寺及び53番札所円明寺の4霊場を巡拝します。

宿を出てから程なくの所にある49番札所浄土寺は、昨日前倒して拝観したので、黙礼しながら通り過ぎ、50番札所東山瑠璃光院繁多寺(はんたじ)には30分ほどで着きます。境内周辺は、景観樹林保護地区に指定されているだけあって、とてもどかな風情があります。

ここから3km弱で51番札所熊野山虚空蔵院石手寺(いしてじ)に着きます。51番札所石手寺は、国宝の仁王門をはじめ四国霊場随一の文化財を有する名刹で、衛門三郎伝説にも関わっています。そんな名刹なのですが、道後温泉の近くにあることから、参道には仲見世のみやげ店が軒を連ねます。この為か、お遍路さんよりも地元方々や観光客らしき人々が多い札所でした。

52番札所龍雲山護持院大山寺(たいさんじ)迄は10km程あり、松山市内の道後温泉の歓楽街を通り抜けて行きます。歓楽街を通り過ぎて、街の縁を巻いていくように歩きます。道後温泉の歓楽街を通り抜けるまで、何とも道が分かりにくいのです。あとから、スマートホンに記録されている歩いた経路を見ると、映画『八甲田山』の如く、何度も道を間違い行ったり来たりしているのが分かります。ようやく辿り着いた52番札所大山寺は、鎌倉時代再建の国重要文化財入母屋造り本瓦葺きの仁王門が出迎え、境内に入ると柱が8本あり、重厚な屋根の広がりを持つ国宝の本堂が圧倒的な存在感を醸し出しています。私は、仏像よりもこうした建物に興味関心を覚えるようで、罰当たりな興味の傾向です。

ここから53番札所須賀山正智院圓明寺(えんみょうじ)までは、約30分ほどです。53番札所圓明寺には、江戸時代の初期1650(慶安3)年の銘がある四国霊場最古の銅板納札が保存されていますが、残念ながら実物は見る事が出来ませんでした。また、大師堂のそばには、高さ40cmほどのキリシタン石塔があります。キリシタン禁制の時代に、この地方には信者が多い中で、寺では隠れ信者の礼拝を黙認していたのではないかと言われています。

街なかでマーク探しのお遍路、これはなんかつまらない。そんな中であって、気持ちを一変させてくれる「おせったい」にふれることもありました。

52番札所太山寺から2.5km先の53番札所圓明寺に向かっている街なかで、60歳台半ばらしき女性から「暑いから気をつけて」と、塩飴と折り鶴を透明な小袋に入れて渡されました。折り鶴イコール広島・長崎の認識しかない私は、その意外性と有り難さで胸いっぱいになりながら、納め札をお渡しして南無大師遍照金剛を三遍唱えました。これは、絶対たまたまではなく常に用意してい

ます。凄い文化です。田舎や街場に関わりなく、おせったい文化は継承されていると実感しながら、衛門三郎伝説はどのような背景で生まれ伝わっているのだろう等々、一期一会の中であって、興味だらけの歩きお遍路です。

#### special notes: 四国遍路の始まり衛門三郎の伝説

・伊予を治めていた河野家の豪農衛門三郎は、強欲で情けがなく、民の人望もありませんでした。ある時、門前で托鉢をしていた僧侶を追い返し、何日も現れますが都度追い返し、8日目、僧が捧げていた鉢を竹のほうきでたたき落とし、鉢を割ってしまい、それ以降、僧侶は現れなくなりました。

・その後、三郎の家では不幸が続き、8人の子供が毎年1人ずつなくなり、ついに全員がなくなってしまいます。打ちひしがれる三郎の枕元に僧侶が現れ、三郎はその時、僧侶が弘法大師であったことに気づきます。以前の振る舞いが自らの不幸を招いたことを悟り、己の行動を深く後悔した三郎は、全てを人へ譲り渡し、お詫びをするために弘法大師を追って四国巡礼の旅に出かけます。

・巡礼を重ね、その都度自分の名を書いた札を打ち付け追いかけていることを知ってもらおうとしました。しかし、20回巡礼を重ねても会えず、今度は逆の順番で回ります。しかし巡礼の途中、徳島の12番札所焼山寺の近く(杖杉庵)で、病に倒れてしまいました。

・死を目前にした三郎の前に弘法大師が現れると、三郎は過去の過ちを詫びました。弘法大師が望みを聞くと「来世は河野家に生まれ、人の役に立ちたい(石手寺刻版には「伊予の国司を望む」)」という言葉を残して息を引き取ります。弘法大師は路傍の石を拾い「衛門三郎」と書き、三郎の手に握らせました。

・翌年、伊予国の領主、河野家に左手を握りしめた男の子が生まれました。安養寺(現在の石手寺)の僧が祈願をしたところ、やっと開いた手には「衛門三郎」と書いた石が握りしめられていたのです。

・こうした衛門三郎伝説は、弘法大師ゆかりの地を巡る四国遍路の起源伝承であり、弘法大師信仰と関係の深い伝説として伝えられています。四国お遍路、納め札、逆打ちは、この衛門三郎伝説から来ていると言われ、現在でも使われています。

#### 行程等基本データ(4月17日36日目)

- ・巡拝寺院: 4寺巡拝(50番札所~53番札所)
- ・天気: 午前 晴 / 午後 晴
- ・歩いた時間: 8時間00分 / 日(7時30分宿発~15時30分着)
- ・歩いた距離: 23.3 km (平均速度: 2.9km/h)
- ・通過市町村: 1市 1町(松山市)
- ・高低差: 670m (80m⇄2m)
- ・消費カロリー: 2,334 kcal